midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

February 2013 No.346

２月号の１枚：中学生今年１本目の間伐

［巻頭言］　学生達に学ぶ事、大である

第１０回：学生エココン大会には、沖縄から北海道までの４６大学が集まった

1998年12月、NPO法制定以来、久しくNPOの解散理由は，[1]活動資金不足、[2]後継者不足、[3]意見対立・・であった。解決策が見つからないためにNPO発足５年で、その80%が解散に追い込まれ10年間での生存率は３%だそうだ。

年末押し迫る昨年12月29日に「全国学生エコ・コンテスト」を学びに行った。ここで、非営利活動の明らかな変化・進歩を見た。この大会の選考基準は、分析力、巻き込み力、成果、将来性である。

最優秀賞、環境大臣賞、会場賞は、「チャリさがさいせい:佐賀大学」が独占した。チャリとは自転車の事であり、卒業生の大學構内の廃棄自転車を修理してフリーマーケットで売り、安定収入を活動の継続に繋ぐだけでなくリサイクル(再資源化)・リユース(再利用)思想を、佐賀市民に浸透させつつ佐賀市政も巻き込んだ運動にしている。しかも、それを思い立ったのが新１年生で、２年目、３年目とシステムが高度化している。「チャリさが」では活動資金不足・後継者不足・意思統一が見事に解決できているだけでなく、学生が市民と行政を巻き込んで即ち、共感を得て自立しているのだ。「チャリさが」学生たちは、この寒空の下、佐賀からチャリでこの東京大会まで来たそうだ。

環境活動に選考委員のアドバイスは、上から目線でなく無理なく若者を受け入れており、若者と年配者の信頼関係が第10回・全国学生エココンを成功させた。毎年入賞常連の「フォレストノバ」は落選したが、その理由を考え対策を打てば来年は、返り咲くだろう。そういう当会も、学生達に学ぶ事、大である。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2013.02

2月 3日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

2月17日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006175

責任ある森林管理のマーク

[定例活動]相模湖嵐山の森

1月20日（第三日曜日）

新年にふさわしい快晴に恵まれた。中央線の車窓からはいつも見慣れた山並みが白く雪をまとってさらに神々しい。春の新緑、夏の花々、秋の紅葉、そして冬の雪。四季折々に異なった表情を見せる日本の森は美しい、といつも思う。今回の参加者は72名。

さて、本年初の定例活動ということで、何を置いても山の神様にご挨拶。「本年も無事に、楽しく活動ができますように」と二礼、二拍手、一礼。その後、鈴木史比古さんから新年のご挨拶を賜った。嵐山の山主さんである鈴木さんのご理解、ご支援があってこその我々の活動である。このことを忘れてはならない。

今日も若者が過半。フォレストノバの呼びかけで日大や千葉大、法政大、東京学芸大の学生が加わったことが大きい。学芸大からは樋口先生が二度目の来訪。嵐山を気に入っていただけたようである。相模原市環境情報センター、トレカーサ工事（国産材、地元材を使うことに重きを置く工務店）の取材陣も加わり、賑やかな滑り出し。滑り出しといえば、何日か前に積もった雪がカチカチに凍っている場所がある。こちらで滑るのは危ないので要注意！

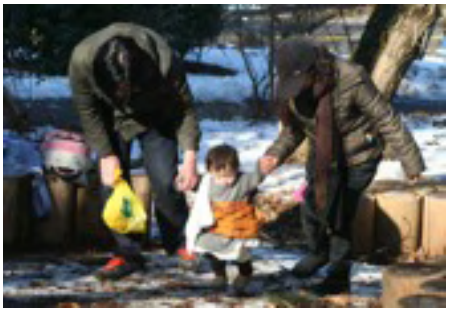
森林整備班は森の見回りだ。崩れている箇所はないか、径路の土留めの補修が必要か、こまめに歩いてチェックしている。地味な作業、しかし縁の下の力持ち。

高井戸中は「なみすけの森」で木を一本伐り倒し、今年も頑張りましょうとますます意気盛ん。望星高校は植樹したトチノキのナンバーを確認。月日が経つとナンバーを記したテープがとれてしまったりするので、これからはもっとよい方法に切り替えたいとのこと。そのトチノキもいまでは人の背丈をはるかに超えるほどに生長している。

フォレストノバのメンバーは他大学の学生を前に森、特にスギ・ヒノキの人工林についての解説。担当の淺野君が熱く語っている（いいですね、若いって。私にもそういう時期がありました）。午後には間伐の予定だが、前回、前々回と掛かり木をつくってしまった実績（？）がある。今度こそ。

午後。ノバは前回からの宿題である径路を横切って倒れた掛かり木の処理、そして間伐体験。掛かり木はメンバーの知恵と力と気合いで何とか無事に完了して、ガッツポーズだ。これですっきりとした気分で新年のスタートが切れる。一方、間伐陣は―。初体験の学生たちに木の伐り方、倒し方を説明した後、いよいよ伐倒にかかる。「うまくいってくれ！」。そんな切なる願いも空しく、スギの木はまたしても掛かり木に。大勢でロープを引っぱったり、緩めたりしてあおるものの、なかなか思うようにはいかず、ついに時間切れ。これで昨年末から三連敗となってしまったが、今回はこのことあるを予想していたとは淺野君の弁。次も頑張ろう。

活動終了後は相模湖交流センターに移動してお楽しみ新年会。「トンビ班」「スッポンタケ班」「ハナオチバタケ班」などと書かれた紙が机の上に置かれている。くじで班分けし、老若男女偏りのないようにとの伊藤女史の配慮。さすがは緑のダム



宴会部長。ノバの瀬戸君との名コンビ司会で会が盛り上がるなか、各自それぞれに出身地や趣味、今後の夢、等々を語り合う。普段はなかなか知ることのできない才能や経歴、愉快な話。和やかな雰囲気にも森に込める熱い思いが感じられる交流の場となった。

それにしても、森に関わる人たちはいつも本当に気持ちがよい。森が人の心を浄化してくれるからだろうか。それとも、浄化された心を持つ人が森に集まってくるのだろうか。

内野郁夫（本会、理事）

[報告１]
湘南の森活動報告

１２月１４日の活動には、１２名が参加した。中央地区とヤブラン平で下草刈りを行った。浅間山からヤブラン平にかけての登山道付近は森林組合の方(?)が除草作業を既にされていた。

市の「みどり公園・水辺課」高野様と5月~7月に実施した樹木調査及び11月に実施した。樹木医の診断調査結果を踏まえて現地を観察。

午後は作業を早めに切り上げて作業小屋の清掃と使用した工具整備を全員で実施、先日の大垣市森林体験イベント事故を教訓とし、「全員ヘルメット着用」を再徹底した。

さらに11月28日に実施した浅間山北斜面の調査で見つけた実生苗には赤い毛糸を付けて区別し、今後は植樹した苗と同様に生育を見守ることとし、平塚市はハイカー向けの湘南平の地図の作成、弱っている樹木の整備などを計画しており、来年度に向けて我々も協力していくことになった。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告２]
ForestNova活動報告
～全国学生環境活動コンテスト（ecocon）2012

12月26日

2012年も終わりに近づいた12月26、27日にForest Nova☆は「第10回全国大学生環境活動コンテスト（ecocon）2012」に参加しました。エココンとは、１年間の活動を振り返り、成果や反省点を発表する場です。全国から多くの団体が参加し、今年は約50団体が参加しました。昨年は、準グランプリと、会場賞を取らせていただきました。しかし、今年はグランプリをとることではなく、多くの人に活動を伝え、また、様々な団体の話を聞き、一緒に環境問題に取り組める仲間を見つけたい、との思いからエココンに出場しました。

まず、26日のグループ選考では6組の中から勝ち残った1団体が、翌日の本選に進むことができます。私たちのグループでは、レンタサイクルを広める団体や、環境教育を行っている団体、さらには、私たちの活動に来た人が所属している団体など、知り合いが多く、素敵な活動をしている団体が集まったので、他の方から「激戦区」と言われていました。しかし、2か月前から、自分たちの活動をきちんと振り返り、いいところも、悪いところも話し合い、発表の練習を重ねてきたので、リラックスして発表することができました。

発表後は、他団体と審査員と、それぞれの団体の活動がよりよくなるように、その団体のいいところや、もっとよくなるところなど、意見を交換しました。このようして、他団体の意見を取り入れたり、伝えたりしあうことで、お互いの活動がよくなっていくのは、とてもわくわくしました。

結果は残念ながら、グループ3位で予選敗退してしまいました。しかし、悔しい思いはあれど、後悔はしていません。一度森に来てくれた子が、飛び入りでエココンのステージに立ってくれたり、話し合いに来られなかった4年生が思いを語ったり、発表を聞いた高校生が、活動に興味を持ってくれたり、この発表によって活動の幅はさらに広がりました。

翌日27日は各8グループから勝ち残った団体が、大きな舞台で発表しました。どこの団体も、一生懸命自分たちの活動を行い、そのことを発表していました。

本選には進むことはできませんでしたが、エココンに出ることで、自分たちの活動を見つめなおし、自分たちの気持ちを一つにし、より良い活動に向かっていくことができ、さらに、社会人、学生など多くのつながりを築くことができました。本当に、実りあるエココンになったと思います。これからも現場に根付いた、定期的な活動を大切にして、より、発展していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

望月　亜佑子（ Forest Nova）

[報告３]
ForestNova活動報告
～新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。昨年は他大学から多くの学生が嵐山、小原に来てくれて一緒に活動することが出来ました。大学や所属する団体が違っても、継続的に一緒に活動出来る仲間も増え、毎回良い刺激を与え合いながら活動出来ました。

森以外でも「森でやらない森の勉強会」を開催し、様々な大学・学部の学生とForest Nova☆のメンバーが思っている森についての疑問や不安、気になることをみんなで考え話し合いました。違う視点の学生と話すことにより、新たな気づきや新しいアイディアが生まれ、とても有意義な勉強会となりました。

夏には環境情報センターの方と相模原の子ども達を対象に環境教育を行うなど、新たなつながりも多い一年でした。また、第一日曜日に行っている小原本陣の森も整備が進み、先輩方が作り上げてきた径路もあと少しで完成です。

今年は昨年に引き続き、ForestNova☆では多くの人と「一緒に考え一緒に行動する」ことを大切にして活動していきたいと思っています。まだ構想段階中ではありますが、夏には他大学の学生はもちろん、NPOの方、あらゆる分野の森の専門家、ForestNova☆OB・OG、その他森とはあまり関わりがない人とも一緒に、森について考えていきたいと思っています。また、森とあまり関わりがない人とも、実はこんな所で森とつながっているんだよということを知ってもらい、何らかの形で関わりたいと考えています。そして森で一緒に活動したいです。また、今年から麻布大学との関わりも深くなると予想されるので、嵐山が麻布大学の森林や生物と関わりのある部活やサークル、研究室のフィールドとなっていくのではないかと思います。フィールドスタディとして授業のカリキュラムに取り入れてもらえたら、私としてはとても嬉しいです。

山主さん、緑のダムや相模湖地域の皆様、OB・OGの方、その他一緒に活動している仲間のお陰でForest　Nova☆は活動出来ています。これからも森と人の共助共生社会を目指して活動していきます。今年もよろしくお願い致します。

吉崎　香代（ Forest Nova）

[コラム]「森の話」第7回 野菜と野生植物[1]

今回は少し趣向を変え、森から田畑へと出向いてみましょう。

この季節、郊外を歩けば青くみずみずしいネギ（写真、右）、寒さを防ぐため外葉を巻かれたハクサイ、そしてたっぷり栄養を蓄え太ったダイコンのいかにも美味しそうな姿が目にとまるはず。冬の食卓にのぼるこれら定番野菜は鍋、炒め物、蒸し物などに利用され、私達の食を満たす上で重要な役割を果たしてくれています。

しかし、これらの野菜はもともと日本にあったものなのでしょうか。もしそうでないとしたら、いったいどこからやって来たのでしょう？

結論をいってしまえば、我が国原産の野菜はほとんどないということになります。稲や里芋、生姜は東南アジア、大豆、桃、柿は中国。キャベツ、人参（写真、左）、大根は地中海・西南アジア、トマトやジャガイモは南アメリカ、というように。わが国原産で店頭に並ぶものといえばワサビ、セリ、ミツバ、ウド、タラノメなどのいわゆる山菜に属するものくらいしか思いつきません。ちょっと意外です。野菜の起源地は上記の地域を含め、世界に７箇所あるとされていて、馴染みの野菜はそこから長い歳月、複雑なルートを経て広く各地に伝播していきました。野菜も世界を旅してきたのです。

ところで、そもそも野菜とはいったい何なのでしょう。野菜も植物であるからには、野生の祖先種が元となっているはず。その野生種が現在見るような形質を持つように至った背景には、実は人間の力が大きく関わっているのです。

大昔、人が定住生活を始めるようになると、居住地周辺では様々な行為―森林を伐採する、小屋を建てる、残飯・ゴミ・排泄物を捨てる等―によって周辺の土地は撹乱され、富栄養化していきます。すると、こうした環境に適応する植物群が現れてきます。「雑草性植物」と呼ばれ、人々はその中から食糧などの用途に利用できるものを見出します。

人間活動が活発化していくにつれ、土地の撹乱はさらに大規模になり、雑草性植物群落の形成を促すことに。やがて住居周辺に小規模な耕作地をつくり、そこで有用植物を選択的に植え始めます。種まき、植え付け、草とり、間引き、施肥などの管理が行われるようになれば、これはもう栽培といって差し支えないでしょう。以降、より利用価値の高い遺伝的な変異を持つものを選抜し続けていくことで今日の野菜の原型ができあがったといわれています。

畑を耕す行為は作物が育つ条件を整えることだと一般には理解されています。しかし、見方を変えれば、土地を周期的に撹乱することであり、そうした環境にすでに適応してきた雑草性植物、すなわち野菜の原型の栽培化を促進させる原動力になったともいえるでしょう。結果、野菜は自然の植物集団から隔離されることとなり、次第に自然状態では生きていくことができなくなるほど特殊化していきます。一方、人間も野菜を頼りに生活するようになり、ここにひとつの共生関係が生まれることになりました。前回コラムで紹介した花と昆虫との関係とはかなり違ったものではありますが。

次回は、このようにして生まれ育ってきた野菜と野生種との興味深い違いについてお話してみたいと思います。

内野　郁夫（本会、理事）

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●9月より新年度を迎えます。新規会員募集と継続会員募集を開始します。
お振込みは極力ゆうちょ銀行からお願いいたします。
世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

●第11期（2012年9月～2013年8月）、会員のみなさま
会へのご支援ありがとうございます。（掲載は振込順になります）

正会員
山本忠順、齋藤憲弘、内野郁夫、宮村連理、川田浩、石村黄仁、石村鸞子、兼松まゆみ、田中万里子、辻田彪、白石晴輝、黒川将和、松尾達、伊熊敏郎、薄井敬、小川昭子、酒井秀夫、石原邦雄、石井明男、曽根福三、井伊直允、佐藤陽子、丸茂喬、櫻井尚武、角田尚子、坂齋明、金子紀和、森弘子、永井宏紀、青山竹文、青山かよ、川田晃、佐藤武行、伊藤小夜子、吉田恒久、岡田陽一、淵上美紀子

賛助会員
(株)月尾研究機構、(株)トレカーサ工事、生命の森宣言・東京、
住工房なお(株)、(株)東急コミュニティ

学生会員
ForestNova７名、杉並区立高井戸中学校地球環境部３０名

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版